国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

マクロコズム

2006.5 VOL.70

Contents

第18回「世界青年の船」事業 2
平成17年度青年社会活動コアリーダー育成プログラム 6
青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議 11
平成18年度国際交流を考える集い（ブロック大会） 12
都道府県IYEOの活動（大阪） 14
国際理解教育支援プログラム 15
ターニングポイント 16
International SWY Day 19

（財）青少年国際交流推進センター

第18回「世界青年の船」事業 The 18th Ship for World Youth Program

「世界青年の船」事業は、日本と世界各国の青年が「世界青年の船」に乗船して、生活を共にし、船内及び訪問国において、世界的視野に立った共通の課題の研究・討論を行うなど各種の多国間交流活動を行うものです。

第18回を迎えた今回は、日本から青年約120名とオーストラリア、バーレーン、ブラジル、カナダ、ギリシャ、インド、ケニア、モーリシャス、モロッコ、スウェーデン、トンガ、UAEからの青年約140名が参加して実施されました。船内活動の中心的なプログラムである「コース・ディスカッション」では「青年の社会参加」を共通テーマに6つの分野別のグループに分かれて、ディスカッションを行いました。また、今回からの新しい取り組みとして、参加青年が主体的に企画・運営をする「PY（参加青年）セミナー&ワークショップ・デー（以下、PYセミナー）」が設けられました。

航路及び寄港地

1/10 1/11~1/12 1/13~1/15 1/14~1/18	外国参加青年来日 オリエンテーション、都内視察、課題別視察 地方プログラム（高知県、栃木県、長野県、広島県、福岡県、福井県） 出航前研修（外国青年は地方プログラムから帰京後に合流）
1/19	東京（日本）出航
1/30~1/31	チェンナイ（インド）寄港
2/7~2/9	モンバサ（ケニア）寄港
2/13~2/14	ポート・ルイス（モーリシャス）寄港
3/2	東京（日本）帰港　外国参加青年離日

トンガ参加青年によるナショナル・プレゼンテーション

UAEの参加青年が主催した公衆衛生についてのディスカッション（PYセミナー）

船内活動

だるま作りを体験（グループ活動）

スポーツを通じての交流（スポーツ&レクリエーション）

訪問国活動

インドの村訪問で地元の小学生と交流し、「よさこいソーラン」を披露

ケニアで障害者施設を訪問

ケニアでサファリパークを訪問

モーリシャスで平和を願って市内を歩くピースウォークを実施

モーリシャスではコース・ディスカッションのテーマ別で課題別視察を実施。ボランティアコースは高齢者福祉施設を訪問。

コース・ディスカッション

昨年度に引き続き同事業では、船内活動の中心的なプログラムとして「コース・ディスカッション」を行いました。「経済」、「教育」、「環境」、「国連」、「ボランティア」、「青少年育成」の6つのコースにおいて「青年の社会参加」を共通テーマにディスカッションを行い、参加青年の各分野についての知識及びそれらの分野において、青年が果たすべき社会的役割について認識を深めるとともに、実践力の向上を図りました。

「青年の社会参加」をテーマとした各国の青年の社会活動の紹介を「全体導入フォーラム」で行った後、各コースに分かれ、指導官とファシリテーターの指導のもと、テーマ別のディスカッションを進めていきました。

また、船内でのコース・ディスカッションに加えて、訪問国のひとつであるモーリシャスでは、コース・ディスカッションごとにコースの内容に沿った施設訪問が行われ、モーリシャスにおける実情を認識することにより、更に深いグループ・ディスカッションにつなげました。

事業の終盤には、コース・ディスカッションの成果報告の場として「サマリー・フォーラム」が開催されました。ここでは各コース30分のプレゼンテーションを行い、参加青年が学んだことを全員で共有しました。

指導官の解説を聞く参加青年（経済コース）

生態系を理解するためのキーワードについて話し合う（環境コース）

「国際協力はなぜ必要か」というテーマにおけるディスカッションの成果を発表（教育コース）

平和維持についてのディスカッションを行い、その成果をまとめる（国連コース）

世界の貧困の現状やボランティア活動をする理由などについて意見を交換（ボランティアコース）

リーダーの持つべき重要な資質について意見を紙にまとめる（青少年育成コース）

第18回「世界青年の船」事業参加青年　渡部加奈子

空と海の隙間で生きてみたい。これまでの自分の活動を振り返りながら、参加青年たちと世界を変える方法を考えてみたい。この2つの想いから「世界青年の船」事業に参加することにしました。

「世界青年の船」事業は主に船内活動から成っており、私は特にコース・ディスカッションへの期待を胸に乗船しました。ボランティアコースでは、各国の地域活動・NGO活動を理解し、ボランティア活動を通じてどのように社会を改善していくかについて、既参加青年であり、さまざまな草の根活動に精通しているアンドラ・モス指導官（USA）をアドバイザーとしてディスカッションが進められました。インド・ケニア・モーリシャスに寄港する直前に行われたそれぞれの国の社会問題を扱ったセッションは、その国を訪れるにあたり新しい視点を得るという意味でとても有意義だったと思います。寄港地出身の参加青年たちの地域活動に対する熱い想いが直に伝わり、日本から遠く離れた地で起きている社会問題をとても身近に感じ、また真剣に考える機会となりました。これは国境がないように感じる環境、空と海の隙間に位置する船の上ならではの体験でしょう。

ボランティアコースでは"Fund Raising Night"を開催しました。星が瞬く夜空のもと、たくさんの青年たちが集い、熱気を帯びたデッキでは、フリーマーケットやマッサージ、Arabic Tea、日本の地酒、カナダ原住民を描いた絵画のオークションなどが催されました。収益はインド・ケニアの参加青年が携わっているNGOへ送金されます。日本では募金といえば「街頭募金」と考えがちですが、ここで経験した主催者と参加者の双方が楽しみながら資金を集めるチャリティーイベントへの参加はとても新鮮でした。

もちろん、船上にはコース・ディスカッション以外にも多くの学びの場があります。私の場合、43日間多種多様な人と出会い続けたことがきっかけで、人生に一筋の光が見えてきました。乗船する前は「大学卒業後は自分のやりたいことと社会貢献の両方をやっていこう」と考えていました。しかし、この事業に参加していなければ、きっと両方とも中途半端なまま一生を過ごしていたでしょう。社会貢献の前に自分の独自性や技術、なにか一つ極めたものを持たなければならないことに気がつくと同時に、どうやって青年期を過ごしたら成熟した大人になれるのかということを学びました。「20代はとにかくがむしゃらに、30代はがむしゃらから見えてきた核を取り出して取り組み、40代は荒削りな核心（道）をならしていく、そして50代になったらようやく自分の得たものを『還元』できる」。船上で私にすばらしい影響を与えた人の言葉です。自分が極めたいアートの世界に飛び込んでいく勇気がわいたのは言うまでもありません。今がスタートライン。50代のその人は、笑顔でこうおっしゃる。「でもやっぱりね、ずっと走り続けていますよ」

⑥ 平成17年度青年社会活動コアリーダー育成プログラム

青年社会活動コアリーダー育成プログラム（以下コアリーダー事業）は平成14年度に開始されました。その目的として(1)社会活動の青年コアリーダーの能力の向上、(2)相互のネットワークの形成を掲げています。この目的を達成するため、高齢者・障害者・青少年分野で活動している青年コアリーダーを各国から招へいし、日本の関係機関・関係者とのネットワーク作りを事業のねらいとしています。

2005年 10月26日～ 11月４日	**派遣事業** 派遣国（各6名） オーストリア：青少年 ノルウェー：障害者 英国：高齢者 招へい者を受入れる県からの派遣者は、実行委員として受入れに協力。
2006年 １月31日	**招へい青年来日** 招へい国（分野混在で各13名） オーストリア・ノルウェー・英国 これまでの実績: H14年度（英国（高）・デンマーク（障）・アメリカ（青）） H15年度（オランダ（高）・フィンランド（障）・ニュージーランド（青）） H16年度（スウェーデン（高）・アメリカ（障）・オーストラリア（青））
２月１日	**閉会式・オリエンテーション・行政官講話・歓迎会** 日本における各分野及びNPOの状況について行政官による講義を実施。
２月２日	**課題別視察** 各分野の専門施設を訪問し、実際の現場を視察及び関係者との意見交換を実施。 【高齢者コース】（財）さわやか福祉財団／江戸川区の介護予防施策例の視察／介護老人保健視察「めぐみ」 【障害者コース】障害者インターナショナル日本会議／精神障害者サポートセンター「こらーる・たいとう」 【青少年コース】NPO法人自然体験活動推進協議会による講義／NPO法人東京シューレ・王子
２月３日～５日	**NPOフォーラム** 日本の各分野のNPO団体関係者と共に、コアリーダーの育成及びNPOの活性化について討議を行った。
２月６日	**地方プログラムオリエンテーション**
２月７日～12日	**地方プログラム** 各コースに分かれての地方プログラム。関連施設を訪問し、NPO及び分野の関係者と共に地方セミナー等を実施。 【高齢者コース】宮崎県【障害者コース】熊本県 【青少年コース】和歌山県
２月13日	**コース発表会・評価会・歓送会** 各コースの成果発表・事業評価の意見交換を行った。
２月14日	**帰国**

英国（高齢者コース）

行政官講話

NPOフォーラム

和歌山（青少年コース）

障害者コースの発表

高齢者関連活動コース〈宮崎県〉

特別養護老人ホームみのり園事務長
派遣プログラム参加者（英国）
岡田　雅寛

特別養護老人ホームみのり園で入所者の大歓迎を受ける外国参加者

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」は、青年コアリーダーの能力の向上と他国の青年リーダーとのネットワーク形成を図るものであり、昨年10月には外国に派遣される立場、そして今年2月には外国参加者を受け入れる立場として、この事業にかかわりました。

昨年10月26日～11月3日の9日間、英国を訪問し、様々なNPO団体等との意見交換等を行う機会をいただきました。そして、今年2月7日～12日の6日間は英国、ノルウェー、オーストリアの各国で高齢者福祉に携わる外国参加者13名が宮崎県を訪れ、福祉施設の訪問や意見交換を行いました。

宮崎での初日は、副知事表敬訪問、県の担当者による高齢者福祉政策に関する講演、そして歓迎レセプションが行われました。2日目はNPO法人あさがおの会が設置する通所介護事業所「あさがおの家」訪問と、療養型病床群を有する杉本病院訪問、3日目は私の所属する特別養護老人ホームみのり園へ来園、4日目は宮崎医療福祉専門学校訪問、地方セミナーの開催、5日目と6日目はホームステイ、そしてさよならパーティーという日程で行われました。

私がこのプログラムに参加して感じたことは、「高齢者福祉におけるボランティア活用の重要性」でした。英国における軽介護者へのボランティアの活用は充実しており、多くの訪問先で無償の常勤ボランティアに出会うことができました。わが国の介護保険のサービスメニューは限定されたメニューでしかなく、サービスとサービスの間に隙間があったとしても、介護保険のサービスとしては提供できません。その隙間を埋めるボランティアの役割を再認識し、制度だけでニーズを充足させられない部分をボランティアが活動の中で果たしていくことが必要であると感じました。ケアプランにインフォーマルサービスとしてのボランティアをより多く取り込むことができれば、制度の持続可能性を高めることになると思います。介護保険制度の隙間をボランティアや地域住民による高齢者サポート活動で埋めていくシステムが構築されれば、良質で低コストのサービスが提供でき、財源問題に悩む介護保険制度の持続可能性にも一つのヒントを与えているように感じました。そして、課題はあれど、日本の介護保険制度は外国の福祉従事者からも評価される非常に充実した質の高い制度であるということをあらためて感じました。

このプログラムに参加させていただき、施設での外国参加者の歓迎やホームステイのホスト役、そして地方セミナーのファシリテーター等、様々な方々との出会いや貴重な体験をさせていただきました。かかわったすべての方々に感謝し、これからもますますの高齢者福祉の向上を目指していきたいと思います。

日　程	プログラム
2月7日(火)	宮崎県副知事表敬、宮崎県高齢者福祉政策に関する講演、歓迎会
2月8日(水)	NPO法人あさがおの会、杉本病院、今山大師座禅体験
2月9日(木)	特別養護老人ホームみのり園
2月10日(金)	宮崎医療福祉専門学校、地方セミナー
2月11日(土)	ホームステイ
2月12日(日)	歓送会、評価会、帰京

特別養護老人ホームみのり園で入所者と交流する外国参加者

地方セミナーの様子

障害者関連活動コース〈熊本県〉

熊本県IYEO受入れ実行委員地方セミナー担当
第29回「東南アジア青年の船」事業参加青年
佐々木　大河

テーマ「障害者の社会参加のための支援」に基づき、訪問先でのディスカッションと地方セミナーに一貫性のあるプログラム設定をしました。

訪問先については、障害者の社会参加にかかわる社会的支援を行う熊本県内の施設及び団体を選定し、「就労」「教育」「生きがい」という3つの側面から考えを深めていくことをねらいとしました。「就労」という観点から、「身体障害者授産施設インターワーク」と「知的障害者福祉工場ステップ1」。「生きがい」という観点から、障害者対象の水泳プログラムを提供しているNPO法人「IOBスポーツ推進事業団」。障害者福祉について議論する際、授産施設や学校のあり方にテーマが集中しがちですが、余暇の時間も重要であるという考え方に基づいた結果です。「教育」という観点からは、「熊本県立ひのくに高等養護学校」を選びました。

地方セミナーでは、ノルウェー王国の参加者が障害者福祉分野における「教育」について、イギリスの参加者が「生きがい」について、オーストリアの参加者が「就業」について、それぞれテーマを絞って発表しました。その後、3つのグループに分かれ、4か国のメンバーと熊本県の障害者福祉関係者がグループワークを行い、各自が自分の意見を述べました。最後に、各グループの代表者がグループ内で話し合われた内容を発表し、コーディネーターが総まとめのコメントをしました。

日　程	プログラム
2月７日(火)	熊本県金澤副知事表敬訪問／歓迎会
2月８日(水)	社会福祉法人やまなみ会訪問
2月９日(木)	福祉工場「ステップ1」訪問／NPO法人IOBスポーツ推進事業団訪問
2月10日(金)	熊本県立ひのくに高等養護学校訪問／地方セミナー／ホームステイ
2月11日(土)	ホームステイ
2月12日(日)	帰京・コース評価会

さて、以上を踏まえ、地方セミナーにおける成果は、以下の3点ではないかと考えます。

■各国の制度や施設の運営スタイルはそれぞれ違う。各々の長所を学びあうことで、効果的に障害者の社会参加の支援へつなげていくヒントを得た。

■「障害を持つ人があたりまえのように暮らせる社会づくり」は各国共通のテーマであり、この点を認識した時に、皆がひとつの方向性を目指す仲間であるという確信に至った。

■今回のメンバー全員が自身の現場におけるリーダーである。ここに集まった最大の成果は、情報交換をし、知見、考え方をブラッシュアップした上で、各自の現場でリーダーシップを発揮し、違いを生み出すところにある。

「仲間としての意識」は、国際交流プログラムが生み出す成果だと思います。「仲間としての感性が、世界の平和につながる小さいが着実なアプローチである」という考え方には納得させられました。

地方セミナー　グループ討議

青少年関連活動コース〈和歌山県〉

オーストリア団長 MarCus Vrecer

During the 2-week-stay in Japan, the delegations had numerous opportunities to meet with representatives of the Japanese Government and Japanese NPOs to exchange best practices, ideas and opinions. A local programme including homestay was well balanced with the activities in Tokyo. I myself had the honour to be the leader of the Austrian delegation.

On a professional as well as on a personal level I found the programme to be very inspiring and enriching. It helped me to see my own work from an outside perspective and reflect freshly on it. The discussions and the joint work with colleagues from Japan, Norway and the United Kingdom brought new ideas and new techniques to my repertoire. Our Japanese friends kept considering us as experts with a mission to transfer knowledge to them and review their work, but we strongly felt that we are all on the same level. Everybody could contribute to something and could learn something, and surely the overseas participants have gained a lot from the contact with their Japanese colleagues. The biggest benefit for me however, was the energy and motivation I gained from meeting people from far away places that share the same goals and idealism, i.e. the peaceful commitment for a more inclusive, fair and cohesive society where difference is considered as an asset in a spirit of solidarity.

Upon return to Austria, our delegation had some troubles to re-adapt to our country, we refused to use fork and knife and we would bow when meeting people. We are all deeply impressed with the amazing hospitality and friendliness of the Japanese people, and we bear very warm memories of our friends in Japan. We hope to see many of you again, please come visit us in Austria.

この2週間の日本での滞在の間、日本政府の代表、NPO関係者と成功事例やアイデア等の意見交換を行う多くの機会を得ることができました。地方プログラムは、ホームステイを含め、東京プログラムとバランスよく構成された内容でした。私自身はオーストリア団の名誉ある団長としての役目を担うことができました。

専門家としてまた個人としても、この事業は私に大きな刺激と多くの実りを与えてくれました。自分の仕事を距離を置いて見ることで、新鮮な気持ちにもなりました。日本、ノルウェーそしてイギリスの仲間たちと、今後の事業について意見を出し合うことで、自分の幅を広げられたと思います。出会った日本の仲間は、私たちのことを自分たちの知識を伝え、仕事を振り返らせる専門家だと思っていたようですが、彼らも私たちと同じレベルにあると強く感じています。すべての人が何かに貢献でき、何かを学び取ります。外国からの参加者も日本の仲間からたくさんのものを得ることができました。私にとって大きなものは、どんなに離れていても同じ目標と理想をもっている人たちに出会い、彼らから強いエネルギーややる気を得たことです。例えば、より広く受入れるための平和的なかかわり、平等な共生社会、「違い」は団結のための財産であるという価値観などです。

オーストリアに帰国してから、私たちは日常生活に戻るのに少々苦労しています。ナイフやフォークを使うことに抵抗感があり、また人に会うときには必ずお辞儀をしています。私たちは心からのおもてなしと友情を日本の皆さんからもらいました。そしてそれは日本の友人の温かい思い出として残っています。またいつか皆さんと会えることを祈っています。どうぞ、オーストリアの私たちのところに遊びに来てください。

日 程	プログラム
2月7日(火)	県庁表敬・歓迎会
2月8日(水)	和歌山県青少年育成協会・子ども劇場
2月9日(木)	仙渓学園&那賀補導センター関係者との意見交換
2月10日(金)	地方セミナー・ホームステイ
2月11日(土)	ホームステイ・歓送会
2月12日(日)	コース評価会・帰京

子ども劇場の参加者と

チームとハートで!

日本青年国際交流機構
会長　田中　南欧子

2年前、IYEO会長に就任し、お蔭様で1期目を無事に終え、再任いただき2期目を努めることとなりました。この2年間はIYEO設立20周年記念のいくつかの事業や、スマトラ沖津波など内外で起こった大規模災害に対する募金活動など、忘れられないことがいくつかありますが、全国各地の多くの皆様に支えていただき共に活動してこられたことに、何よりも感謝申し上げます。平成18年度も「共生社会の精神に基づく国際協調を目指して」の活動方針を踏まえ、さらに皆様とともに歩みを進めたく存じます。

任期中を振り返るとき、各地のブロック大会や全国大会などでお会いしたたくさんの方々を、1枚1枚名刺を見ながら思い出します。そして少しずつ顔を覚えていただき、いろいろな場所で気軽に声をかけていただけるようになったことを大変うれしく思うとともに、こうした個人のつながりが、活動を活性化していく大切な基盤であると実感しています。

昨年度末には、若いメンバーの発意と工夫で「会員証」が完成し、IYEOのバッジと一緒にIYEOに入会したばかりのフレッシュな会員の方々にお渡しできるようになりました。皆さんも経験があることと思いますが、事業に参加した直後は、まだ感動もさめやらず現実の生活にすぐに戻れないものですが、次第に日常生活のペースにもどり勉強や仕事が忙しくなってくると、最初の思いを忘れがちになります。そんな時に手にしてもらいたいのが、この「会員証」なのです。何か聞きたい時はどこに連絡をしたらよいかなどいろいろな情報がコンパクトにぎっしり詰まっています。一人で悩むことはありません。ここから事業を越えた横のつながり、参加年度を越えた縦のつながりが生まれてくることでしょう。一人では難しいことでも、仲間がいればいろいろな活動を展開することが可能です。私たちのIYEOは、チームなのです。

新入会員の皆さん、何か一つ参加してみましょう!事後活動への第一歩をぜひ踏み出してください。各都道府県IYEOの先輩のみなさんは、新入会員を把握し、参加しやすいように誘ってあげてください。また、転勤などで住所が変わった時には、送り出す側から転居先へもれなく連絡をしてください。そうすれば、新しい任地でのIYEO活動もスムースに始められます。国際交流活動はいつでもどこでもハートが大切です。形式にこだわりすぎることなくその地方や地域に根ざした独自性のある活動ができたら、それこそIYEOの理想です。また、外国の方と交流することにより新たに興味を持つものがあれば学ぶこともできます。それは外国の言語、文化、習慣などを知ることであり、日本についての知識を再認識する良い機会にもなります。私たちの貴重な体験を積極的に社会に還元するために、自分自身も楽しみながら長く続けることができる活動づくりを頑張っていきましょう。

最後に、皆様の御健康と御活躍を願って再任の御挨拶とさせていただきます。

「会員証」につきましては、全国大会、ブロック大会、各都道府県総会等の折にお渡しします。

平成18年度日本青年国際交流機構役員

会長		田中南欧子
副会長		大橋　玲子
〃		佐藤　周一
〃		大河原友子
〃		上杉　聖次
〃		大久保信一
ブロック幹事	北海道・東北	佐藤　恵一
	関東	渡辺　英明
	北信越	山口　博士（新）
	東海	鈴木　伸彦
	近畿	松本　仁孝
	中国	遠藤　裕（新）
	四国	浜川真千子（新）
	九州	武元　典雅（新）

事務局長	野村　隆紹
事務局次長	本田　温子
幹事	齋藤　珠恵
〃	藤本　和子
〃	久保　直子
〃	矢口　稔
〃	白鳥　正信
〃	田中佐代子（新）

監査役	焼野嘉津人
〃	椿　景子

顧問	寺下　英明
〃	奥野　照義
〃	坂田　清一
〃	大森　充
〃	酒井　洋幸
参与	大谷　直義
〃	三浦　博史
〃	中野　智昭
〃	田中　克宣

IYEO活動方針

「共生社会の精神に基づく国際協調を目指して」

1. 相互理解を深めるための自己研鑽を図ろう
2. 地域社会における国際交流活動を推進しよう
3. 歴史ある国際交流団体としての社会貢献活動に取り組もう

青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議
(財)青少年国際交流推進センター推進委員会議
日本青年国際交流機構第43回全国推進会議

平成17年度2回目の実施となる「青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議」が、平成18年3月4日(土)～5日(日)に(独)国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。

第1日目 (議事進行順に記載)

開会式
1. 内閣府青年国際交流事業について
2. (財)青少年国際交流推進センター事業報告及び計画等
3. 議長及び議事録署名人の選出
4. 議事提案
5. 議事内容

報告事項① 平成17年度下半期活動報告及び予定
第1号議案 日本青年国際交流機構活動方針について
第2号議案 日本青年国際交流機構平成18年度活動計画(案)について
第3号議案 日本青年国際交流機構平成18年度予算(案)について
報告事項④ 設立20周年記念事業の進捗状況について
(寄付金／スタディーツアー／新入会員用リーフレット)

ブロック別懇談

第2日目

第4号議案 日本青年国際交流機構役員の改選について
報告事項② 平成17年度下半期都道府県活動報告並びにブロック大会報告及び平成18年度開催予定について
第5号議案 ブロック大会のガイドラインについて
報告事項③ 日本青年国際交流機構全国大会について
報告事項⑤ 募金活動の報告
報告事項⑥ その他(日韓連絡会議事務局の設置／SWYプロモーションビデオ／グローバル・フォト・コンテスト／表彰の授与並びに表彰推薦手順の運用)
第6号議案 その他

テーマ別懇談会 受入れ事業別グループディスカッション
「地域に根付いた受入れ事業設定のための成功事例の共有」
1. 「国際青年育成交流」事業
2. 「東南アジア青年の船」事業
3. 「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業
4. 「日本・韓国青年親善交流」・「日本・中国青年親善交流」事業
5. 「世界青年の船」事業
6. 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」
7. ブロック大会
8. IYEOの未来を語る

閉会式

第21回全国大会宮城大会での募金収支報告

全国大会宮城大会で集められた募金が以下のとおり分配されましたので報告します。御協力ありがとうございました。

募金合計	¥146,468
〈内訳〉	
物産展	¥ 78,150
福袋	¥ 68,318

出金合計		¥146,468
〈出金記録〉		
国際ネットワークしまねニューオーリンズ支援募金*	2006.3月 4 日	¥100.000
日本赤十字「パキスタン北部地震災害・被災者救援活動」**	2006.3月31日	¥ 46.468
残高合計		¥ 0

* 「グローバルチャレンジしまね21」事業にかかわった高校教師カレン・ウィリガーさんが窓口となり、昨年8月のハリケーン「カトリーナ」による米国南部の高潮災害を受けた子供たちのために、被害の大きかった数校の学校の復興を支援する活動。

** 平成17年度「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業中に起きたパキスタン北部での震災に対して事業参加青年が募金活動を行い、日本赤十字社を通じて被災地へ送金した経緯を引き継いで実施。日本赤十字社は第18回「世界青年の船」事業の課題別視察先でもある。

平成18年度国際交流を考える集い（ブロック大会）一覧

ブロック	開催県	開催日（案）	ブロック構成都道府県	会　場（案）
北海道・東北	福島県	8月26～27日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島	土湯温泉観山荘
関東	千葉県	10月28～29日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨	さわやかちば県民プラザ
北信越	富山県	8月19～20日	新潟・長野・富山・石川・福井	越会館
東海	岐阜県	9月2～3日	静岡・愛知・岐阜・三重	調整中
近畿	兵庫県	平成19年1月末または2月第1週	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山	神戸市六甲山YMCA
中国	広島県	8月5～6日	鳥取・島根・岡山・広島・山口	調整中
四国	香川県	12月2～3日	徳島・香川・愛媛・高知	湯元ことひら温泉琴参閣
九州	沖縄県	平成19年1月27～28日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄	調整中

平成17年度のブロック大会より

「東海ブロック青少年国際交流を考える集い」

平成18年1月28日（土）～29日（日）
静岡県島田市地域交流センター『歩歩路』（静岡県島田市7968-5）

第1日目

14:00～14:30 アイスブレーキング
14:30～15:00 講演「粘土で国際交流!日本の文化を伝えよう」
15:00～17:00 雛人形制作体験
18:00～ 懇談会

第2日目

9:00～ 分科会「世界お茶の旅」「お茶の郷博物館」訪問

粘土でお雛さまを作る参加者

「九州ブロック青少年国際交流を考える集い」

平成18年1月28日（土）～29日（日）
日田亀山亭ホテル（大分県日田市隈1-3-10）

第1日目

15:00～16:00 基調講演「広瀬淡窓と日田」
講師:広瀬淡窓研究家　深町浩一郎氏
16:00～17:00 シンポジウム　テーマ「これからのIYEOの展開～私たちに今すぐできること～」
18:30～20:30 船上懇親会

第2日目

9:00～10:00 分科会
①応募者及び新入会員を増やす方法
②魅力ある事業の企画
③組織の活性化
10:00～10:30 分科会発表
11:00～ 地域理解研修

日本青年国際交流機構第22回全国大会香川大会

香川県から全国に向けて熱い想いを届けようと、日々あれやこれやと悩みながら、皆さんに楽しんでいただけるプログラム作りに励んでいます。香川県らしい内容のプログラムで、皆さんといろいろなことを共感し、ひとつになれるように頑張りたいと思っておりますので、是非、香川県未体験の方も、リピーターの方も、どしどしお越し下さい!

日　程：平成18年12月2日(土)～3日(日)
場　所：湯元ことひら温泉琴参閣
香川県仲多度郡琴平町685-11
TEL：(0877)75-1000
http://www.kotosankaku.jp/

プログラム案

◇基調講演(案)

少林寺拳法グループ総裁 宗 由貴様による「共生社会」をテーマとした講演
～少林寺拳法の目的は「人づくり」にあり!～

◇分科会(案)

『空海についての講義』 ➡ 香川が生んだ元祖国際人、空海について学びましょう♪
『地域文化財理解講座 in 金丸座』 ➡ 現存する日本最古の芝居小屋を見学しましょう♪
『農村歌舞伎鑑賞』 ➡ 中学生による農村歌舞伎を鑑賞し、伝統文化継承の意義について学びましょう♪
『お接待についての講義』 ➡ お遍路さんへの手厚いお接待の心について学びましょう♪
『少林寺拳法体験講座』 ➡ 少林寺拳法の型を実際に学び、心身ともに鍛えましょう♪

◇地域理解研修(案)

『中野うどん学校にてうどん作り体験』、『金陵の郷(酒造)にてきき酒、ラベル作り体験』、『金刀比羅宮参拝』

～讃岐まんでがん通信～

香川県青年国際交流機構　井川　美紀

今回は、香川に行ったら、やっぱりこれ!と思われているであろう「讃岐うどん」についてご紹介したいと思います。

昨今のうどんブームでご存じの方も多いかと思いますが、香川県には石を投げればうどん屋に当たる?ほど、たくさんのうどん屋があり、大きく分けると、普通に注文をするタイプと、自分でうどんをゆがき、好みの天ぷら等を取るセルフタイプのお店があります。初めての方は、このセルフスタイルに戸惑われるかもしれませんが、こちらの方がきっと楽しいと思います。お店にもいろいろ個性があり、香川県民なら誰しも一軒や二軒はお気に入りのうどん屋さんがあります。太い麺の方が好きな人もいれば、細い方がいいという人もいるし、硬め、軟らかめの好みもあるでしょう。うどんは噛まずに飲み込むのが本当の食べ方だと言われていますし、私は喉越しを楽しむなら、やっぱりちょっと太くて硬めがいいなぁと思います。皆さんも、是非うどん屋巡りをして、お気に入りのお店を見つけてみて下さい。

ちなみに、現在「踊る大捜査線」の本広克行監督(香川出身)が香川県にて、その名も「UDON」という映画を撮影しています。ユースケ・サンタマリア主演とのことですが、一体どんな映画になるのでしょう?きっと、見終わった後に「香川に行って、うどんが食べたい!!」と思われること間違いなし。8月26日公開ですので、皆さん是非ご覧になって下さい!
なお、うどん屋情報を知りたい方は、こちらをどうぞ。
http://www.shikoku-np.co.jp/udon/index.aspx
http://www.e-sanuki.com/udon/

「やってみなはれ。やらなわかりまへんで」

大阪府青年国際交流機構　会長
第20回「東南アジア青年の船」事業参加青年
酒井　洋右

ドラムは筆者（中央奥）、ベースはアメリカ人、キーボードはイギリス人、鍵盤ハーモニカは日本人がそれぞれ演奏

ここ大阪、北新地といえば高級料亭やラウンジなどが並ぶ近畿を代表する繁華街ですが、その中にIYEOの会員が毎月第3土曜日に「オフ会」を実施している外人バーがあります。ここ「Bar Captain Kangaroo」ではおよそ7割が外国人客です。近くに「ヒルトン大阪」があり、外国人宿泊客が英語メニューに釣られて入ってくるケースが多いようです。他にも留学生やパイロット、外国語学校の教師などまさに人種のるつぼと化しています。

なぜこのバーで「オフ会」を開催しようとしたかというと、①定例会や受入れ実行委員会だけでなく、会員が気さくに雑談しながら交流できる場所を設けたかったこと ②バーが繁華街、梅田に近く、会員が仕事帰りなどに気軽に参加できる立地条件であること ③外国人客が多いため、会員が定期的に在阪外国人と交流できること ④北新地でありながらビールが1杯400円で飲め、参加者にも費用負担が少ないこと ⑤私が元々演奏をするため店に出入りしていて、地元外国人と面識があったことです。

また、この「オフ会」は昨年春からほぼ毎月実施しており、毎月参加者は入れ替わりますが、多いときでは会員16名、外国人は把握できないくらいでいつもお店いっぱいです。上述①のようにテーマを持った会合ではないので、会員には同窓会気分で気楽に参加するようメーリングリストで知らせています。また、相談事がある場合、このお店に来れば既参加青年が必ずいるので、ぜひこの機会を利用してくださいと新入会員にも案内しています。なにより、イベントに参加して楽しいこと、また明確な目的を持たず、交流するためだけに実施すること、日常の生活に影響が少ない時間帯に実施すること、参加費用が安く済むことが、継続して「オフ会」を開催できている要因だと思っています。

よく「オフ会」に参加する会員から「世界船の刺激のある日々から、日常生活に戻るとなんだか物足りない気がしていました。そんな時、会長に紹介していただいたのが *Bar Captain Kangaroo*。気ままに足を運ぶと、そこはまるで『にっぽん丸』のピアノラウンジ!音楽や歌、お酒、ダンス、多言語での会話。そこでの時間は、帰国後の私にとって船での経験が蘇る大切な時です。これからもほっと一息『異国の空間』で、新しい空気を一杯吸って楽しい事後活動をしたいと思っています」というコメントをいただいています。

このバーでは毎月第3土曜日にJam Session Partyを実施しており、夜も更けると何処からとなく皆が楽器を持ち寄り、ある程度メンバーが揃えばさてJam Sessionの始まりです！ Jamなので曲目も決まっていなければ楽譜もありません!よく「テンポは?コードは?3コードでいいかな?」なんて適当な打ち合わせで演奏を始めることもあります。適当に演奏して、終わってから「いまの曲いい曲ですね!誰の曲?」なんて他の奏者に尋ねて「知らないのに演奏していたのか!」と笑われることもしばしばです。奏者も、ギターはオーストラリア人、ベースはアメリカ人、キーボードはイギリス人、ボーカルはドイツ人、ドラム又はカホンが私という構成で、民族楽器を取り込んだまさにInternational Jam Sessionに発展することもあります。ちょっと風変わりですが、これもれっきとした国際交流ではないでしょうか?踊って歌えるのもこのお店の楽しみの一つです。

近畿圏の皆様、毎月第3土曜日は是非北新地に足をお運びください!

「Bar Captain Kangaroo」
大阪市北区曽根崎新地1-5-20大川ビル
http://r.gnavi.co.jp/k467200/問い合わせはosaka@iyeo.or.jp

CENTERYE「国際理解教育支援プログラム」

(財)青少年国際交流推進センター(CENTERYE)は、青少年国際交流事業の実施、青少年国際交流に関する啓発、情報提供、支援などを通じて、社会の各分野において国際化時代にふさわしい青少年を育成することを目的としています。その具体的な活動のひとつとして、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校に派遣する「国際理解教育支援プログラム」を平成16年度から始め、すでに4回実施しました。平成18年度も継続しますので、本プログラムの利用・参加を希望する方は担当者までお問い合わせ下さい。

1. 目　　的

内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を、日本の学校に派遣し、国際理解教育の推進に資する。

2. 事業の概要

(1) 国際理解を目的に実施される授業に参加する外国青年の紹介、派遣
(2) 学校での活動内容などプログラム全体の企画、相談に応じる

3. 派遣される外国青年

国際理解教育に対して関心と理解があり、簡単な日本語ができ、自国について紹介することができる国際交流事業の既参加外国青年等

4. 経　　費

会場までの往復の交通費等の実費(首都圏:東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、栃木県、群馬県、山梨県に限る。その他は要相談)、ボランティア保険保険料、その他プログラムを実施する上での必要経費は当センターが負担

5. 本事業の担当者

(財)青少年国際交流推進センター　啓発・推進部主任　本田温子(atsuko@iyeo.or.jp)

工夫を凝らして
コミュニケーションする
生徒とフィリピン青年

みんなで作った料理を試食

これまでの実績

日　時	学校名	対　象	授業「テーマ」	派遣された外国青年
平成16年1月23日(金) 1:30~2:30	東京都立 杉並ろう学校	対象人数:12人	総合的な学習 「コミュニケーション入門国際交流編」	Jaime Collado(フィリピン)　*SSEAYP26参加青年 Paul Bartley(ニュージーランド)　**SWY11参加青年
平成17年2月17日(木) 1:30~3:40	東京都立 杉並ろう学校	対象人数:12人	総合的な学習 「楽しい国際交流」	Jaime Collado(フィリピン)　SSEAYP26参加青年 Paul Bartley(ニュージーランド)　SWY11参加青年 Marwan Dhamrin(イエメン)　SWY10参加青年
平成17年10月23日(金) 1:30~2:40	新宿区立富久 小学校	対象人数: 30~40人を 2クラス	研究発表会 「Good Friendship」	Jaime Collado(フィリピン)　SSEAYP26参加青年 Chew Kim Soon(マレーシア)　SSEAYP26参加青年 Brian Boo Gozun(フィリピン)　SSEAYP24参加青年 Gunhan Ozhan(トルコ)　SWY12参加青年
平成18年1月27日(金) 1:30~4:00	東京都立 杉並ろう学校	対象人数:13人	総合的な学習 「料理で国際交流」	Jaime Collado(フィリピン)　SSEAYP26参加青年 Brian Boo Gozun(フィリピン)　SSEAYP24参加青年 Aileen Limplepee(フィリピン)　留学生

* SSEAYP : Ship for Southeast Asian Youth Program　** SWY : Ship for World Youth program

第2回「世界青年の船」事業参加青年
第11回「世界青年の船」事業サブ・ナショナル・リーダー
第10、12、16回「世界青年の船」事業管理部員

坂西（ばんざい） 佳子（けいこ） さん

坂西さんは第2回「世界青年の船」事業に参加された後、管理部員として合計3回「世界青年の船」に乗船されました。また、青少年活動の青年海外協力隊隊員としてタンザニアに派遣され、青少年センターでエイズ対策などの活動に従事する傍ら、貧困地区に住む音楽の才能あふれる若者を発掘し、タンザニアの伝統芸能の太鼓や踊りを演じるプロ集団「OYAシアター」を結成されました。ボランティアとして行ってきた活動が国際的な専門職として通用するのだと知ったときの思い、OYAシアターが設立されるまでの過程、ご自身がかかわった貧困削減プロジェクトなどについて語っていただきました。

第2回「世界青年の船」事業に応募されたきっかけを教えてください。

はっきりとは覚えていないのですが、大学の掲示板を見たのがきっかけで、大学2年の時に応募しました。この1年前に「静岡県青年の船」という事業に参加しました。船で上海まで行き、上海から北京まで飛行機で移動し、北京では学生と交流するという2週間のプログラムでした。これがとても楽しく、船旅によい印象をもつようになり、もう一度あのような楽しい思いができるのならと、「世界青年の船」事業に応募しました。

実は、私はあまり英語が得意ではなかったので、船の中では苦労しました。もしかしたら、周りの人たちも私の英語のせいで苦労していたのかもしれません。ただ、私は最年少で乗船したので、すべてのことが私にとっては新鮮で毎日楽しく過ごせました。自分にはできないことがあって引け目を感じることもありましたが、一番年下だったので、他の青年が助けてくれました。

大学卒業後、イギリスでのボランティア活動を経て、「静岡県青年団連絡協議会」の「静岡県青年の船事務局」で5年間勤務しました。その後、第10回、第12回「世界青年の船」事業で管理部員を務め、また、青年海外協力隊隊員としてタンザニアに2年9か月赴任しました。帰国後、再度、第16回「世界青年の船」事業の管理部員として乗船し、その後、国際連合ボランティア計画(UNV)の国連ボランティアとしてカリブ海のセントルシアで貧困削減のプロジェクトにかかわりました。

ボランティアとしてではなく、専門職として

中学生のころ卓球部に入っていたのですが、高校入学後、卓球をやめて時間をもてあましていたところ、近所のお姉さんから子供会のジュニアリーダーをやらないかと誘われました。活動内容は子ども会の夏のキャンプやクリスマス会のお手伝い、リーダー研修会に参加することなどで、楽しく参加していました。

こうして、高校生の頃からごく自然に青少年活動に携わっていたわけですが、当時の私は、そうした活動が海外にも広がる可能性があるとは思いもよらなかったんです。

1つの転機となったのは、第10回、11回「世界青年の船」事業の指導官イクバル・ハジ先生のお話を聞いたことです。先生は当時、国際連合事務局社会政策・開発局上級職員で、青少年関連がご専門だったように記憶しています。先生は「国連と若者」という題で講演をされ、青年が21世紀を担う中心的な役割を演じるのだとおっしゃいました。私にはこの話がとても興味深く、先生に自分がこれまでずっと続けてきた青少年活動についてお話しました。先生は、そのようなキャリアがあるのなら、国連をめざしたらよいのではないかと言われました。

これまで自分が国内での活動にすぎないと思ってやってきたことが、国際的にも専門職として認められる可能性があると思うとうれしくて、国連をめざす前のひとつのステップとして、青年海外協力隊に応募してみることにしました。そして、第12回「世界青年の船」に乗船する前に「青少年活動」の隊員として合格しましたが、まだ赴任地は決まっていませんでした。

第12回「世界青年の船」事業では、タンザニアの寄港地活動があり、とても楽しく、タンザニアに対してよい印象が残りました。第12回の事業から帰国すると、なんと、JICA(国際協力機構)からタンザニアへ行かないかと打診があったのです。私は二つ返事でOKし、2000年4月から研修が始まり、7月にタンザニアへ赴任しました。

タンザニアでの活動について教えていただけますか。

青少年センターでエイズ対策の活動を行っていました。対象は10歳から25歳くらいまでの若者ですが、彼らをとりまく家族や学校の先生、地域のリーダーにも理解してもらう必要があるので、地域住民全員が対象とも言えます。若者を教育して地域でエイズに関する啓発活動を行う「ピア・カウンセラー」とか「ピア・エデュケーター」と呼ばれるボランティアを養成しました。エイズ対策のパンフレットを作っても文字が読めない人もいるので、演劇を通して理解を深めてもらうようにしていました。エイズに関する演劇の上演に加えて、タンザニアの伝統的なダンスを踊りながら、啓発的な歌詞の歌を歌ったりするのです。

こうしたプロジェクトはたいてい3年

間で終わってしまいます。プロジェクト実施中は、ボランティアの若者にわずかながら日当や交通費が支給されますが、彼らにはこれ以外の収入源がないのです。プロジェクトが終了したら、この子たちはどうやって食べていくのだろうという思いがいつもつきまといました。彼らは小学校を卒業してもお金がないため中学校には行けません。何より、彼らが働かないと食べていくことができないのに、肝心の仕事がないのです。

才能のある若者たちとの出逢い

彼らには練習を重ねれば花開く才能があるように私には思えました。ここはタンザニアの首都なのだから外国人を対象に踊りを披露すれば、収入源になるかもしれないと考えました。彼らにその話をすると、音楽が大好きなので、音楽で食べていけるのなら、きちんとやってみたいと言ってくれました。

もともとこの地域から有名な音楽家がでていましたから、土地柄、住民には音楽に対するセンスのようなものがあり、埋もれている才能もあったと思います。でも、わざわざ貧困地区に出かけて行って可能性のある若者を発掘してプロとして育てようという人はおらず、何かトラブルがあったらどうするのかと心配する人のほうが多いのが現実でした。

青少年センターとしては、その地区の若者たちがエネルギーをもてあまして非行に走るより、青少年センターの中で歌い踊りまくって疲れ果ててしまってくれたほうがいいという考えでした。実際に青少年センターで活動を始めると、希望者がどんどん集まり、30人くらいになりました。

◀OYAシアター

▲OYAシアターの力強い踊り

人数が増えてくると、意外なことに、グループのリーダーが不満を漏らし始めました。理由をきいてみると「僕はもっとうまくなりたいんだ。そのために練習しているのに、初心者が入ってくると、その度に初心者に教えなくてはいけなくて、満足に練習できない」と言うのです。それもそうかもしれません。

しかし、青少年センターで行う活動ですから、来る者を拒むことはできません。それで、選抜メンバーだけで練習する日を土曜日に設定することにしました。

こうして練習をしていたある日、私たちの練習ぶりを見ていた女性が仕事を紹介してくれたのです。場所は、海沿いにある外国人用の観光スポットで、ショッピングセンターやきれいなレストランが立ち並ぶ場所です。そこで行われるパーティーに選抜メンバー10名ほどが呼ばれました。

パフォーマンスを披露したところ、ある客がメンバー1人ずつに1,000シリング（約1ドル）を渡してくれたのです。彼らが住んでいた地区では、一世帯の平均月収が35～40ドルでしたから、彼らが受け取った金額はおよそ1日分の賃金に相当します。この出来事は彼らにとっても、そして私自身にとっても大きな励みとなりました。このように思ってもみなかったところから彼らの芸術を披露する機会が与えられたことを思うと、やはり「運」に恵まれたのだと感じずにはいられませんでした。

そんなにうまくはいかない

その後、順調にOYAシアターを結成して、仕事も入ってきて…と話が進めばいいのですが、やはり、物事はそんなにうまくいかないものです。実は、大きな自信になった先ほどの出来事を皆が喜んでくれたわけではなかったのです。残念なことに、私は配属先の青少年センター長から勝手なことをしないでくれと言われました。彼らの自立のために、よかれと思って始めたことでしたが、選抜されなかったメンバーにとってはおもしろくない状況だったようです。結果的に青少年センターでは、本格的な音楽活動を続けることが難しくなってしまいました。

私はメンバーにこれからどうしたいのか尋ねてみました。もう、やめるという青年もいましたが、プロとして活動したいので、青少年センターから出て行くと言う青年もいました。もともと私が持ちかけた話でもあるので、責任を感じ、続けたいという青年が別のところで練習できるよう援助することに決めました。

私がすべき重要な仕事は彼らを市場に売り込むことでした。まず、営業をしなくてはなりません。そのため、多くの方々にお世話になりました。内閣府の国際青年育成交流事業（日本青年海外派遣）のタンザニア団が訪問したときや、JICAの視察団が訪れたときにパフォーマンスを披露したこともありました。

▲ベンチを寄贈した学校

さまざまな活動を重ね、2002年5月にタンザニアの音楽・ダンスグループOYA(Opportunity for Young Artists)シアターを正式に発足させました。

当初は練習場所がありませんでした。それで、同期の協力隊隊員と協力して拠点となる建物をつくりましたが、日本円ではわずかな金額でした。また、OYAシアターが活動する地区の子供たちが通う寺子屋のような学校では、イスがなく、石の上に座って勉強しているのを見て、ベンチを寄贈することにしました。

2004年には私の地元浜松市の方々より、練習会場を地域の若者の拠点へと発展させたり、子どもたちの寺子屋にトイレを設置したりするための支援をいただきました。

世界大会でグランプリを受賞

2002年3月に協力隊隊員としての任務を終え帰国しました。その後、その年の9月に行われるタンザニアのバガモヨ芸術祭にOYAシアターを参加させるために再度タンザニアを訪れたところ、OYAシアターのメンバーは彼らなりに練習を続けており、非常にうまくなっていました。この芸術祭でOYAシアターは5つの優秀団体の1つに選ばれ、高い評価を得るようになり、やがて2004年1月、モザンビーク、ジンバブエ、マラウィ、タンザニア、ザンビアの5か国が参加するミュージック・クロスロード大会でグランプリを受賞したのです。

その後、OYAシアターは海外からも招かれるようになり、ヨーロッパ8か国で公演を行いました。

日本公演について教えていただけますか。

昨年より日本公演を行っています。OYAシアターの躍動感あふれるパフォーマンスをぜひ日本の方にも見てもらいたいと思っていたところ、縁あって海外舞台芸術作品のプロデュースをする会社を通じて、プロ集団として本格的に日本縦断ツアーをはじめました。昨年は10人のメンバーのうち5人が来日し、日本全国の小・中・高校を中心に公演を行いました。今年は5月8日から7月と8月末～12月の2回、日本公演を行うことになっています。

貧困削減のために欠かせないのはどんなことでしょうか。

私自身、これはずっと考えていることで、まだ答えが出たとは言えないのですが、これまでの体験を通じて現在考えていることとしてお話しします。

私は貧困削減のプロジェクトにかかわってきましたが、プロジェクト形式の援助には限界があるのではないかと思うことがあります。貧困削減には、被益者の自立が不可欠なのですが、プロジェクトには何年といった期限がありますし、一度実施すれば終わりとなることが多いため、継続して自立を促すのが難しいのです。これだけのことを行いました、という「量の評価」はできても、被益者一人ひとりが、プロジェクトを通じてどのように人生を前向きに変化させていったのかという「質の評価」がなかなかできないのです。

私は一人の人間の変化という点を大切にしたいと考えています。ただ、実際にプロジェクトにかかわる場合は、それどころではないことが多く、そこまで求めるのは難しいということもよく分かっています。

貧困削減の援助を必要とする途上国の貧しい層にとっては、「貧困削減=自立」であり、「自立」=「起業」なのです。途上国には日本のような大会社はありませんし、たとえあったとしても、貧困層の人たちにはそのような会社に雇ってもらえるだけの学歴もなければコネもありません。彼らが自立するには、自分で何かをするしかないのです。自分で何かをするというのは、やはり起業、なんらかのビジネスを行うことになります。

日本では「貧しい人々のために職業訓練校が必要」という考え方は理解されやすいのですが、「貧しい人々のためにビジネスを」と言うと「え?」と思う人が多いことも知っています。でも、こうした途上国の背景を理解してもらえたらと思うのです。

タンザニアの伝統芸能を通じて、若者の自立を目指す活動に取り組んできましたが、OYAシアターの場合、彼らの自立とは、プロとしてのステージを展開し、ステージの質の高さゆえに人々に認められ、それをビジネスとして成り立たたせていくことであると思います。そのために、彼らは大変な努力をしています。「貧しい国の若者=かわいそう」と見なすのではなく、困難な状況でもめげずに奮闘している青年たちとして見てほしいのです。

途上国の現状をよく知らないために、時々誤解されることもありますが、まずは実際に彼らと出逢うチャンスを大切にしていくことが、理解者を増やすことにつながると思っています。ですから、たくさんの子どもたちに本物のアフリカ音楽を届けられる2006年の日本縦断ツアーを楽しみにしています。

OYAシアター日本公演のお知らせ

OYAシアターの自主公演に関心をお持ちの方は以下までご連絡ください。

株笑う猫 文化事業局　担当:小杉
TEL:0422-56-2329(代)　FAX:0422-56-2379
〒180-0012 東京都武蔵野市緑町2-1-5
E-mail:office@warauneko.com
http://www.warauneko.com

インタビューを終えて

昨年の秋に坂西さんにお話をうかがうことになっていたのに、取材当日、大型台風が上陸し、泣く泣く断念した経緯があります。今回こそは!と大いに期待して出かけて行き、期待が裏切られることはありませんでした。控えめなお話ぶりではありましたが、言葉ひとつひとつに経験してきた人でなければ語れない重みのある内容がつまっていました。

International SWY Day（「世界青年の船」の日）を知っていますか？

第３回「世界青年の船」事業参加青年・
第32回「東南アジア青年の船」事業ファシリテーター　小林　真由美
第14回「世界青年の船」事業参加青年　田中　久美子
第14回「世界青年の船」事業参加青年　稲葉　信二
第15回「世界青年の船」事業参加青年　平山　尚子

私たちは2004年に実施された「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議（通称:Ex-PY会議）の実行委員会で出会いました。Ex-PY会議は、各国の代表者が「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)の活性化やグローバルなネットワークの構築を目的として、1995年から毎年1回開催されています。近年、SWYAAが正式な政府登録団体に認定される国が出てくるなど、多くの国の組織基盤が確立されてきたので、会議では、組織強化について話し合われると同時に、より多くの既参加青年（Ex-PY）に事後活動に参加してもらうための企画をしていこうと、2004年の会議からは、各国からの会議代表者並びに日本人実行委員全員が何か1つのプロジェクトに関わることになりました。

それらの1つが、International SWY Dayです。第1回「世界青年の船」（SWY）は1989年1月18日に晴海港を出航しました。その日を記念して、毎年1月18日にSWYの精神を忘れず、社会貢献活動をしようというのがこのプロジェクトの趣旨で、私たちの経験を何らかの形で地域社会に還元していきたいという思いが込められています。

実施の第一歩として2005年1月にプロジェクトメンバーの角谷さん（SWY13 PY、15&18 ADM（管理部員））は、留学先のカナダでチャリティーディナーを開催しました。小さな一歩でしたが、会議で話し合ったことが実施された貴重な一歩でした。

2006年は、私たちが発起人となり、東京でチャリティーランチを開催し、13名の方が参加しました。回生や事業が異なる参加者がいたので、楽しい雰囲気を演出できたらと、席をくじ引きで決めたり、チャリティーラッフル（福引）をしたり、工夫を凝らしました。また第18回「世界青年の船」事業に参加する新参加青年とつながる工夫として、参加者全員にメッセージを書いてもらい、モーリシャスのSWYAAインターナショナルリユニオンにスタッフとして派遣された中山さん（SWY10 PY、13 ADM）にメッセージボードを託しました。準備期間が短かったので、大規模なイベントにはならなかったものの、12,740円が集まり、日本赤十字社へ寄付することが決まりました。発起人3名が昨年の「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業の中でパキスタン北部地震へのチャリティー募金を行い、日本赤十字社に送金していたことから、寄付先はすぐに決定しました。

さらに今年のEx-PY会議では、International SWY DayにSWYAAケニアがHIV/AIDS施設に行ってボランティア活動をしたという報告や、SWYAAセイシェルがチャリティーイベントを実施したという報告もあり、少しずつですがInternational SWY Dayは世界各地に広がっています。今後は日本各地でInternational SWY Dayを開催し、何か少しでも社会に貢献し続けられたらと思います。

Ex-PY会議を通じて知り合った私たちは、参加した年度も、職業も、年齢も違うので、この会議に参加しなければ、一緒にプロジェクトを実施することはなかったかもしれません。事後活動というと堅苦しい印象もあるし、何をしたらよいかわからないと思う方もいるかもしれませんが、最初の一歩を踏み出せば、後は意外に簡単だと思います。みなさん、ぜひ気軽に自分の興味がある活動にまずは参加して、さまざまな人に出会い、世界を広げ、楽しくプロジェクトの企画運営をしてはいかがでしょうか?

International SWY Dayの様子は、ウェブでご覧いただけます。

www.iyeo.or.jp/swyaa/International SWY Day

国連の記念日と国際年

国連では特定のテーマを対象とした「国際デー」や「国際年」を設定しています。その目的は、対象となっている課題を広く認識してもらうことで、関連機関では各種イベントが開催されています。マクロコズムでは、関係する「国際デー」を抜粋し、その記念日の背景や実施されるイベント等についてご紹介していきます。

2006年:砂漠と砂漠化に関する国際年

(International Year of Deserts and desertification)

この国際年は、全世界で甚大な環境、社会、経済コストをもたらしている砂漠化を食い止めることを目指して、第58回総会において宣言されました。(以上、国際連合広報センターホームページ参照)

5月・6月の記念日(計15日設定のうち4つを抜粋)

5月・6月		
5月	15日	国際家族デー
	31日	世界禁煙デー
6月	5日	世界環境デー
	20日	世界難民の日

世界難民の日(World Refugee Day) 6月20日

2001年が難民の地位に関する条約(1951年)の50周年にあたること、またアフリカ統一機構が6月20日「アフリカ難民の日」と同日に国際的な難民の日を設けることに同意したことから、2000年12月4日、国連総会は毎年6月20日を「世界難民の日」とすることを決議しました。2001年以来、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)がその年のテーマを発表し、世界各地で様々な催しが行なわれています。2006年のテーマは「希望(Hope)」です。UNHCRの公式支援窓口である日本UNHCR協会では、2005年から主に4月〜7月を「世界難民の日」キャンペーン期間として、各種イベントを募集し、ホームページ(www.japanforunhcr.org)で紹介しています。

日本UNHCR協会からのメッセージ

今年も広く登録イベントを募集しています。普段から「難民支援」の活動をしている人々ばかりではなく、むしろ「こういった活動は初めて・・・」という方々が、手探り状態ながらも工夫して、難民問題を学びつつ伝えようとするイベントを応援したいと考えています。小さなイベントでもかまいません、第一歩として自分でできることから始めてみませんか?たくさんのご登録をお待ちしています。登録用紙と詳細はホームページでご覧いただけます。写真パネルの貸し出しも可能です。

お問い合わせ先 e-mail: wrd@japanforunhcr.org
Tel: 03-3499-2450

ケニアのダダーブ難民キャンプにて　UNHCR協会/中村 恵

東京で予定されている主なイベント

■「世界難民の日」写真展

内　容:ケニアの難民キャンプ・ダダーブに暮らす子どもたちが、初めて手にしたカメラで自由に写した写真(特別協力:ワンダーアイズプロジェクト)/
タイのミャンマー難民キャンプの子どもたち(特別協力:ガールスカウトピースパックプロジェクト)
日　程:2006年6月19日(月)〜7月14日(金)
10:00〜18:00　休館日:土・日
会　場:渋谷区神宮前　UNハウス(国連大学ビル)1・2階　入場無料
主　催:UNHCR駐日事務所、日本UNHCR協会

お知らせ!

おいでませ…山口県 萩へ……

JYGC "第5回青年の船" 35周年記念大会

昭和46年の秋、東京晴海埠頭から出航し、神戸に帰航してからはや35年になります。皆々様、いかがお過ごしでしょうか。5年前、兵庫県舞子ビラでお約束いたしました山口県での35周年記念大会開催の準備が整いましたのでお知らせいたします。

会場は、明治維新の魂を今に受け継ぎ、懐かしいぬくもりと新しい感動を与えてくれる所「萩」を選びました。山口宇部空港とJR新山口駅から萩までの無料送迎バスを運行し、ふぐとオコゼの郷土料理を用意してお待ちしています。

タイ、シンガポール、スリランカの参加青年より問い合わせもあります。

多くの仲間が一堂に会することを希っていますので、ご家族、お知り合いお誘いあわせの上ご参加ください。(なお、7月頃に詳しい計画を皆様にご案内いたします)

日時　平成18年11月18日(土)～19日(日)

会場　山口県萩市椿東　萩本陣

山口県からの参加者

清水　清美(5班)　崖　登司之(7班)　藤田富美子(9班)
蔵田　大介(13班)　堀江　新子(15班)　岡本　哲次(19班)
野村　久美子(24班)がお迎えします。

連絡先　実行委員長　崖　登司之
(勤)0836-83-8811(自)0836-41-6472
E-mail : popopi@c-able.ne.jp

「第三回日韓交流連絡会議」参加者募集!

日韓交流連絡会議は、日本・韓国青年親善交流事業既参加青年が、参加年度を越えて仲間の絆や日韓交流への想いを共有し、さらなるネットワークを広げる目的で2004年より開催されているものです。3年目を迎える今年は、以下の通り開催いたします。

と　き：8月25日(金)～27日(日)(予定)
ところ：韓国ソウル市内もしくは近郊

※詳しくは、本事業のホームページをご覧ください。
http://www.iyeo.or.jp/korea/renraku/

今年も、たくさんの韓国派遣団OB・OGの皆様にお会いできることを楽しみにしております。奮ってご参加ください!

問合せ先：日韓交流連絡会議事務局(川嶋伸明)　korea_kaigi@iyeo.or.jp
Tel:03-3249-0767　Fax:03-3639-2436(財)青少年国際交流推進センター内

平成18年度中国同窓会のお知らせ

中国同窓会の皆様

皆様いかがおすごしですか? H18年度の中国同窓会幹事団の26団です。
下記の日程で今年度の総会を開催する予定ですので、奮ってご参加下さい。
詳細は別途お知らせいたします。

日　　時：H18年6月24日(土)・25日(日)　1泊2日
会　　場：神奈川県(横浜万葉の湯)
プログラム：1日目:集合(午後)・総会・懇親会
2　日　目：解散・希望者にはオプショナルツアーを予定(料金別)
費　　用：総会・宴会約6,000円/宿泊約10,000円(朝食は含まれません)
*上記は4月上旬現在の予定です。

問合せ先：壬生佐智子(みぶさちこ)(26団)　sachiko@iyeo.or.jp
Tel:03-3249-0767　Fax:03-3639-2436 (財)青少年国際交流推進センター内

坂本 達　待望の2冊目『ほった。』

第18回「東南アジア青年の船」事業参加青年
第31回「東南アジア青年の船」事業ナショナル・リーダー

～4年3カ月も有給休暇をもらって自転車で世界一周し、
今度はアフリカにみんなで井戸を掘っちゃった男～

夢を追いかけている人、夢を見つけたい人、生きている実感がほしい人、必読!

価　　格● 定価1,260円(税込)
仕　　様● 160p(内カラー19頁)
四六判/ソフトカバー
対象年齢● 小学校高学年から大人まで
発売開始● 2006年4月中旬～
発行・発売● 三起商行
ISBNコード　4-89588-813-4

○2005年JICA(国際協力機構)フォトコンテスト理事長賞受賞作品掲載
○帯には、独立行政法人　国際協力機構(JICA)の緒方貞子理事長の献辞が入ります。

「ギニアの人々と共に汗をかき、悩みながらも完成させた井戸。信頼を深める、国際協力の真の姿がここにあります。」

IYEOスマトラ島沖地震復興募金収支報告

「スマトラ島沖地震復興募金」がすべて分配されました。

御協力ありがとうございました。（平成18年3月5日現在）

募金合計	**AUD 220.00**	**NZD 125.00**	**US$3,863.00**	**¥805,767**
	オーストラリアドル	ニュージーランドドル	米ドル	日本円
	@¥76.63	@¥66.91		
日本円へ換金	**=¥16,858**	**=¥8,363**		
募金合計（$/円）			**$3,863.00**	**¥830,988**
出金合計			**$3,863.00**	**¥830,988**
〈出金記録〉				
ASSEAY(SI Thailand)	2005年3月24日		$3,000.00	
SWYAA Sri Lanka	2005年4月25日	($3000分+手数料¥5500)		¥326,350
SII (SI Indonesia)*	2006年4月28日予定		$863	
		$4500分 ($3637分+手数料¥6000)		¥438,301
京都府IYEO**	2006年3月5日			¥ 66,337
残高合計			**$0.00**	**¥0**

＊ :アチェ州（ナングル・アチェ・ダルサラム州）のインドネシア既参加青年が中心となり、10人程度の小中学生のための奨学金制度を企画。SIIが中心となって実施予定。

＊＊:インドネシア、アチェ州出身のSSEAYP既参加青年で、 京都府で大学時代を過ごしたメックスを窓口に、京都府IYEOが実施する絵本プロジェクト。日本語の絵本をインドネシア語に翻訳し、被災地の子供たちへ送る活動。

第18回「世界青年の船」事業帰国報告会

「それぞれの旅、それぞれの挑戦、小さな地球がここにある」

日時：平成18年6月18日（日）13時～16時30分（12時30分開場）　場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

〈お申し込み・お問い合わせ〉（財）青少年国際交流推進センター　第18回「世界青年の船」事業帰国報告会係
Tel:03-3249-0767　Fax:03-3639-2436　E-mail:swyaa@iyeo.or.jp

今月号の表紙

「触れ合えて感動」
平成17年度内閣府青年国際交流事業
（航空機による青年海外派遣）報告会
フォトコンテスト 交流部門優勝作品

編集後記

マクロコズムの編集担当になって早いもので1年がたちました。新たな気分で新年度をスタートさせようとマクロコズムのデザインも新しくしてみました。ご感想をお待ちしています。（ふ）
(macrocosm@iyeo.or.jp)

MACROCOSM 5月号 Vol.70

2006年5月1日発行（隔月発行）
編　集　マクロコズム編集委員会
発　行　財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階
TEL:03-3249-0767　FAX:03-3639-2436
e-mail：macrocosm@iyeo.or.jp
URL：http://www.centerye.org（CENTERYE）
http://www.iyeo.or.jp (IYEO)
編集協力　内閣府政策統括官（共生社会政策担当）
日本青年国際交流機構（IYEO）
定　価　220円（本体210円）
印刷所　株式会社 長 正 社
TEL:03-3531-1369　FAX:03-3531-3235

since 1884 Pioneer Of Cruise

USPH 日本郵船の5年連続推薦

USPH＝米国公衆衛生局は米国に入港する客船に対して毎年抜き打ちで衛生検査を実施しています。にっぽん丸は2000年から3回連続して100点満点中99点を取るなど、日本船では最高の評価を5年半の間受け続けています。

冒険する生活
MOPAS にっぽん丸

スマートな身のこなしでご夫人方を魅了するわけでもなく、気のきいたセリフを操るわけでもない。なのに、なぜか彼がいるだけで、その場が自然と和んでしまう…。それが、にっぽん丸の"こぶ平"こと、アシスタント・ツアーディレクター藤川悟の魅力だ。「いやいやもう、恐れいります。学生時代からのアダ名でして…今ではすっかり、お客さままで"こぶちゃん"なんておっしゃる。なんとも嬉しい限りです」。風貌はもとより語り口まで、まるで落語だ。とはいえ、多くのにっぽん丸クルーの中にあって、お客さまから親しみを込めてアダ名で呼ばれているのは藤川だけ。振る舞う、というのではなく、あくまでも自然体でありながら人の心をつかむ術を彼は心得ているのだ。「心がけは、一日一善ではなく一人一善です。声をおかけする、荷物をお持ちする、何でもいいんです。クルーズで出会ったお客さま一人ひとりと必ず何かしらの接点を持つこと。それを地道に続けていれば、どんなお客さまだって必ずこを聞いてくださるはず」という藤川。にっぽん丸のツアーでお客さまを世界の国々へ誘い早11年。そろそろ責任者昇進も夢ではない。

もてなしにも、品質があります。にっぽん丸の船旅

八丈島クルーズ 名古屋発着
名古屋→八丈島→名古屋
2006年7月19日〔水〕～7月21日〔金〕 90,000円

夏休み 神津島・新宮クルーズ
横浜→神津島→新宮→横浜
2006年8月25日〔金〕～8月28日〔月〕 135,000円

東北夏祭りクルーズ
横浜→秋田→青森→横浜
2006年8月2日〔水〕～8月7日〔月〕 245,000円

プラチナ エンターテイメント クルーズ 神戸発着
神戸→長崎→神戸
2006年9月15日〔金〕～9月18日〔月・祝〕 170,000円

済州島と海峡花火・阿波踊りクルーズ。
横浜→神戸→済州島→下関→小松島→横浜
2006年8月9日〔水〕～8月16日〔水〕 308,000円

南洋の楽園クルーズ。
横浜発着37日間 ポリネシアなど太平洋の8つの島々を探訪
2007年5月9日〔水〕～6月14日〔木〕 980,000円

そのほかのクルーズもご用意しております。表示の代金はステートルームC1室を2名でご利用の場合の大人お一人様・国内クルーズは消費税込の旅行代金です。※：各種のコースがございます。

商船三井客船 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5F
MOPASは商船三井客船の愛称です。

お問合わせは 各クルーズ取扱旅行会社 またはMOPASクルーズデスクへ。

クルーズデスクフリーダイヤル 0120-791-211 http://www.mopas.co.jp

マクロコズム　2006年5月号　通巻七十号隔月発行　定価二二〇円（本体二一〇円）編集協力：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）日本青年国際交流機構

創立50周年特別企画

2006年 7月22日(土)～7月29日(土)
8日間　横浜 発着

にっぽん丸 北紀行クルーズ

―世界自然遺産"知床"／白神山地、人気の利尻をめぐる―

◆スケジュール〈概略〉・旅行代金◆

	月日	都市	スケジュール〈概要〉	食事
1	7/22（土）	横浜	乗船・出港（12:00出発）	昼夕
2	7/23（日）		太平洋上の航海 ●「ロザンナ・ディナー&ショー」 ロザンナ監修ディナーとカンツォーネの夕べ	朝昼夕
3	7/24（月）	利尻	利尻へ入港 ●知床自然解説員による「知床自然レクチャー」	朝昼夕
4	7/25（火）	知床	知床へ入港 【各種オプショナルツアーをご用意しております】	朝昼夕
5	7/26（水）		オホーツク海～日本海　航海日 【各種船内イベントをお楽しみください】	朝昼夕
6	7/27（木）	鰺ヶ沢	白神山地の玄関口・鰺ヶ沢入港 ●幽玄の世界から笑いの世界へ誘う「狂言」をお楽しみいただけます。	朝昼夕
7	7/28（金）		最後の航海日（日本海～津軽海峡～太平洋） 【船内イベントを存分にお楽しみください】	朝昼夕
8	7/29（土）	横浜	入港（10:00頃到着）	朝

☆添乗員：同行いたします　　☆最少催行人員：100名

■旅行代金（大人お一人様）横浜発着

客室タイプ		☆	3人利用代金	2人利用代金
ステートルームC（14m²）	1階丸窓	2	283,000円	323,000円
ステートルームB（14m²）	2・3階角窓	3	309,000円	353,000円
ステートルームA（14m²）	4階角窓	4	344,000円	393,000円
デラックスルーム（19m²）	5階	5	—	693,000円
スイートルーム（40m²）	5階	6	—	1,113,000円

●ロザンナさんの講演"スローライフの提案"

歌手として、またイタリア料理専門家として活躍中のロザンナさんが「スローフードなイタリア食文化、愛と歌」について語ります。

●ロザンナさん監修"ロザンナ・ディナー&ショー"

ロザンナさんが監修したオリジナルディナー、そして優雅なカンツォーネの夕べと軽快なトークをお楽しみいただける「ロザンナ・ディナー&ショー」を開催。

●自然解説員による、船上レクチャー

色とりどりの花が迎える「利尻」、動植物に出会える雄大な「知床」、世界最大級のブナ原生林が残る「白神山地」。知床自然解説員が乗船、寄港地オプショナルツアーのご案内や、寄港前には船上レクチャーも行ない、地球の息吹をより深くご体感いただけます。

●イベント【狂言】

室町時代に生まれた狂言は、現代に残る最古のセリフ劇であり喜劇。今も昔も変わらない日本人の普遍的な「おかしさ」で見る人の心を和ませます。京都・茂山千五郎家による笑いを体感してください。

5月31日までにお申込のお客様には早期割引の適用となります。
詳しくは係員にお尋ね下さい。

【旅行企画・実施】
トップツアー株式会社
国内旅行部　中央国内旅行センター
〒153-8550 東京都目黒区東山3-8-1

国土交通大臣登録旅行業第38号
ボンド保証会員

（社）日本旅行業協会正会員
旅行業公正取引協議会会員

詳しい旅行条件を記載したパンフレットをお渡しいたしますので、担当までお問い合わせ下さい。

■お問合せ、お申し込みは
トップツアー株式会社 新宿支店
総合旅行業務取扱管理者　伊藤　浩

営業1課にっぽん丸クルーズ担当係
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-20-2
TEL. 03-3340-0600
FAX. 03-3340-0628
平日 9:30～18:30　土曜・日曜・祝日休業

2348